

熊本大学学術リポジトリシステムの開発について

熊本大学附属図書館 電子情報係 高木貞治

リポジトリシステムの検討

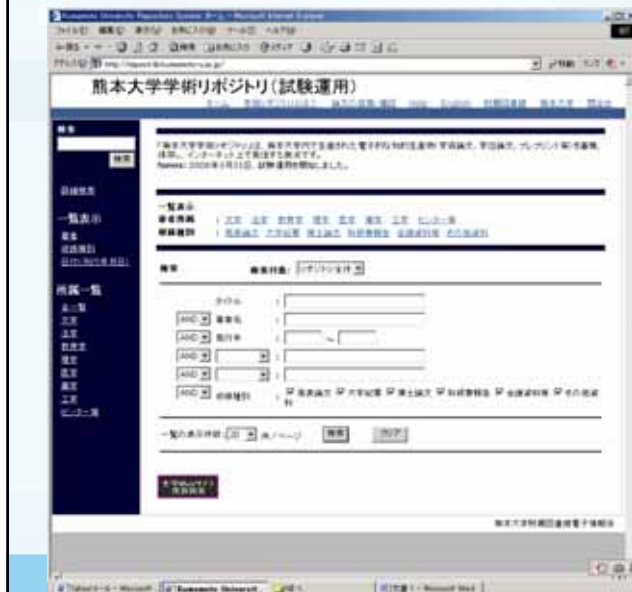
DSpace の導入、管理について

Linux のオープンソフトウェアを運用、管理する困難さ
多機能だが、図書館での管理運用には適していない？
研究者の投稿にも、多くのステップと手間が必要

図書館ソフトウェアメーカーに導入、改造を依頼

DSpaceの機能は維持しつつ、インターフェイスの向上を

1. 閲覧検索画面



シンプルな画面

タイトル、著者等、年等の検索BOXを備える

収録タイプからも一覧

2. 投稿・確認の認証

熊本大学統合認証の採用



職員ID、共通のパスワードでのログインが可能

CAS認証 熊本大学ポータルシステムに対応

3. 研究者の投稿手順の簡略化

* 入力が必要最低限の項目に

* 著者、キーワード等の繰り返し「/」区切りで入力

4. 管理者の代行投稿、編集の簡略化

- ・研究者からのメールでの投稿依頼等の場合、管理者側で本人に代行して投稿する機能を追加
- ・上記の際の手間も研究者の投稿と同様に、入力の手間の軽減
- ・CSV形式で複数アイテムの一括インポート、エクスポート
- ・収録タイプについては、あらかじめ登録しているローカルタイプを選択することで、DCMI、NII等のタイプも対応表に基づいて、自動登録

システムの試験公開

- 平成18年3月31日試験公開

初期データ

学内紀要 552件

NII紀要ポータルで公開していたもの

博士論文 250件

別のローカルシステムで公開していたもの

図書館とリポジトリシステム

－ 私見ですが －

今後、機関リポジトリは多くの大学図書館にとって不可欠の要素となる

リポジトリシステムも目録、受入、閲覧等と同様に図書館システムの中に位置づけては？